

背景と課題

- Society 5.0における分野横断的なデータ連携により人や車の移動をよりスムーズかつスマートにする新たな価値創造の提言
- 米国Smart City Challengeなどスマートシティによる交通や運輸の課題解決に向けたICT基盤の開発・実証の高まり

研究開発の目的

- 環境データと交通データを分野横断的に流通・利活用するオープンデータプラットフォームを構築し、自然災害や地域イベントなどの突発的な環境変化によるモビリティリスクをリアルタイムに予測・配信する技術を開発
- 市民等が参加し地域に特化したスマートで持続可能性の高いモビリティサービス(Smart Sustainable Mobility)を開発

研究開発の概要

- **Smart Sustainable Mobilityデータ流通・利活用プラットフォームの開発**
 様々なセンサーや情報源から取得した環境と交通に関するデータをリアルタイムに流通させ、モビリティに影響を及ぼす可能性のある異常気象や地域イベントなどのリスクの発生をリアルタイムに予測するAPIを備えたプラットフォームをNICT統合テストベッド(異分野データ連携基盤)上に構築
- **地域ユーザ参加型のSmart Sustainable Mobilityサービス開発実証**
 プラットフォームを活用し、モビリティリスク予測に基づくインフラ監視保全やルート案内を行うサービスを地域ユーザが参加して開発するハッカソン型の実証実験を実施
- **Smart Sustainable Mobilityを対象とした異分野データ連携アーキテクチャの策定**
 環境・交通データを横断的に流通・利活用するためのデータ形式やメタデータ、各種データ連携機能に関する技術要件と参照実装、モデルケースをスマートIoT推進フォーラムの技術報告書に反映させ、テストベッド上のプラットフォームと合わせ公開

【スケジュール】

- 2018年度:プラットフォームの基本実装とプレ実証
- 2019年度:リアルタイム化とモデル地域実証
- 2020年度:地域実証の横展開とアーキテクチャ公開

